

石山地区の新設校（小学校）開校に向けた 説明会の開催結果のお知らせ

石山地区では、石山小学校と石山南小学校の学校規模適正化を図るため、平成 25 年以降、地域や保護者の皆様と様々な検討を行ってまいりました。

このたび、石山地区で新たな小学校を新設する方針が定まり、以下のとおり説明会を開催しましたので、その概要をお知らせいたします。

なお、説明会に関するご意見、ご質問は、最終ページの【お問合せ先】までお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

※ 新設校の学校施設に関するご意見は、今後の施設設計等の都合上「5月31日（火）」までにお寄せいただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

説明会の日時等

平成 28 年 3 月 27 日（日）

（1 回目） 石山南小学校（体育館） 午前 10 時 00 分 ～ 11 時 15 分

（2 回目） 石山小学校（多目的室） 午後 2 時 00 分 ～ 3 時 15 分

<トピックス>

石山地区では、平成 26 年度に「学校規模適正化検討委員会」を、平成 27 年度には分科会として「石山部会」を設置するなどして、両小学校の学校規模適正化の検討を進めてきました。

また、平成 28 年 2 月 26 日には石山部会の部会長である福士委員から、札幌市教育委員会の長岡教育長へ、これまでの検討内容を取りまとめた意見書をご提出いただきました（意見書の内容については、次ページ以降でご説明します）。

意見書を手交いただいた後、これまで約 2 年間の検討報告のほか、石山小、石山南小への地域の方々のかかわりや、今後の地域の発展などについて意見交換がなされました。



～ 説明概要 ～

1 石山地区における学校規模適正化の検討経過

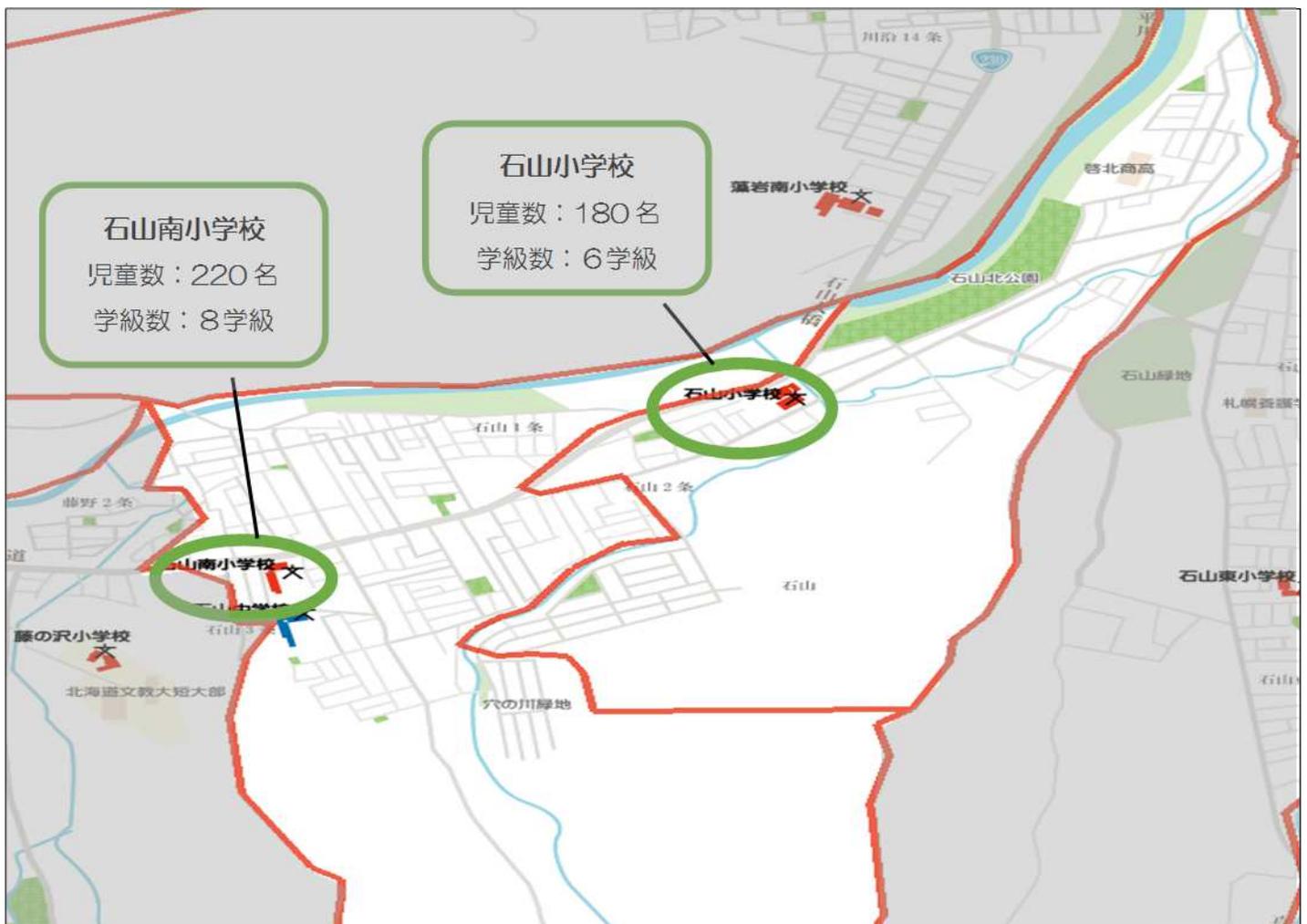
教育委員会では、平成 25 年 3 月に策定した「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する地域選定プラン〔第 2 次〕」で、学校の小規模化が進んでいる石山・芸術の森地域の 4 小学校（石山小・常盤小・石山南小・石山東小）を学校規模適正化の対象校に選定しました。

その後、地域での説明会や、関係団体との協議等を経て、平成 26 年 7 月に保護者や地域の方々等で構成する「石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会」を設置し、4 小学校の学校規模適正化についての検討を行ってきました。

平成 26 年度で統合する学校の組合せが概ね定まったため、平成 27 年度からは石山小と石山南小を検討対象とする「石山部会」と、常盤小と石山東小を検討対象とする「芸術の森部会」に分かれ、より具体的な検討を行っています。

このような経過を踏まえ、平成 28 年 2 月 26 日に石山部会から教育委員会に石山地区の学校規模適正化に関する「意見書」が提出されました。

（参考）現在の石山小学校、石山南小学校の校区図



※ 児童数・学級数は平成 27 年 5 月 1 日時点

< 概 要 >

- 石山小と石山南小を再編し、現在の石山小の敷地に新たな学校を設置すること

【補足】新設校をどこに設置するかは部会で最も議論があった部分です。

中学校との連携やまちづくり等を含め、どちらの学校敷地を活用しても一長一短ある中で、最終的には「児童の通学距離」「学校敷地の広さ」「学校施設の新築により児童が新たな気持ちで通学できること」等の理由から、現在の石山小の敷地に新たな学校を設置することとされたものです。

- 新設校では、現在の両小学校の特色ある教育内容や歴史等に配慮しつつも、未来志向の「新しい学校づくり」を進めること（※ 校名は、検討のうえ別途意見書を提出）

【補足】両校の特色や歴史はとても大切な財産です。

一方で、新設校が開校した後、子どもたちの間に「転校生」のような意識や「出身校ごとの壁」が残ることは決して望ましくありません。

このような観点から、新しい学校の校名等は今後引き続き検討されますが、基本的な方針として、現在又は将来の子どもたちのために「新しい学校づくり」を進めていくこととされたものです。

なお、新設校の中には、両校の記念品等を展示する「メモリアルスペース」等も設置していく予定です。

- 通学安全の取組を充実するなどし、児童が安全に通学できるようにすること
- 最寄りの小学校が藤の沢小となるご家庭から、個別に指定校の変更（藤の沢小への指定変更）の要望があった際には、柔軟に対応すること
- 両小学校間の交流事業等を実施し、安心して開校を迎えられるよう配慮すること
- 新設校は、まちづくりセンターや児童会館との複合化が見込まれるが、その運用にあたっては、児童の安全や学習環境に最大限配慮すること
- 新たに建設する施設については、石山地区の特色に配慮した施設とすること
- 石山南小学校の跡活用については、地域の活性化に資する活用方法を検討すること

【補足】具体的な跡活用の方法については、今後も石山部会等を通じて、地域の皆様と協議させていただきたいと考えています。

3 今後の予定等

教育委員会では、石山部会から提出いただいた意見書の内容を最大限尊重し、今後、具体的な取組を進めていきたいと考えています。

なお、新設校の開校時期は「平成31年4月」を見込んでおり、その間の工事スケジュールや検討事項等は以下のとおりです。

【今後のスケジュール等】

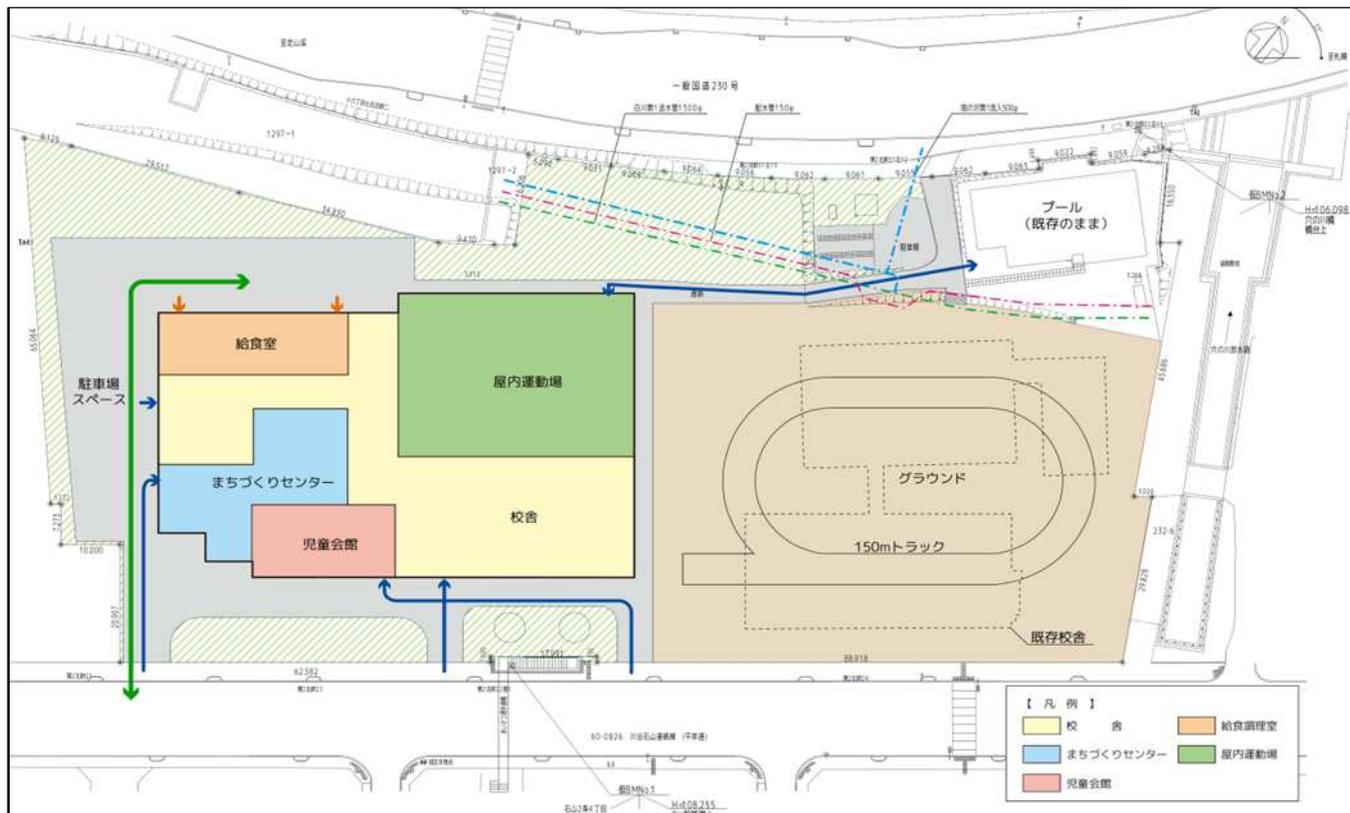
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	4 3	4 3	4 3	4 3	4 . . .
工事関係	契約等 校舎、体育館等の実施設計	契約等 校舎、体育館等の建設工事	新校舎完成	石山地区新設校開校	グラウンドの供用開始
検討事項	【今後の検討事項】 ・校名について ・跡地活用について ・閉校式、開校式について			既存校舎等の整備 グラウンドの整備	グラウンドの供用開始

※ 「校名」や「跡地活用」など、今後検討すべき事柄が多数ありますので、地域や保護者の方々との協議については、平成28年度以降も継続していきたいと考えています。

検討体制や検討の状況等については、随時「ニュース」等で皆様にお知らせしてまいります。

4 新設校の配置計画案

【配置計画案】



【配置計画案コンセプト】

- 「仮設校舎不要」「児童の引越し負担軽減」「工期短縮」等のため、現在のグラウンド側に新校舎を建設（近隣住宅地への日影影響もない配置）
- 新たに建設する施設は「小学校」「まちづくりセンター」「児童会館」の複合施設
- 「小学校」「まちづくりセンター」「児童会館」はそれぞれ平岸通に面し、施設の位置や入口をわかりやすく配置
- 児童の通学安全確保のため、通学動線と車両動線が交差しないよう歩車分離を徹底
- 建物周囲に死角がない防犯性の高い配置
- 屋内運動場とグラウンドが隣接し、災害時の避難拠点として利用しやすい配置
- 平岸通に沿って緑地空間を確保し、平岸通からの騒音対策にも配慮
- 西側住宅地側にスペースを確保し、圧迫感を低減

【参考：新設校イメージ】



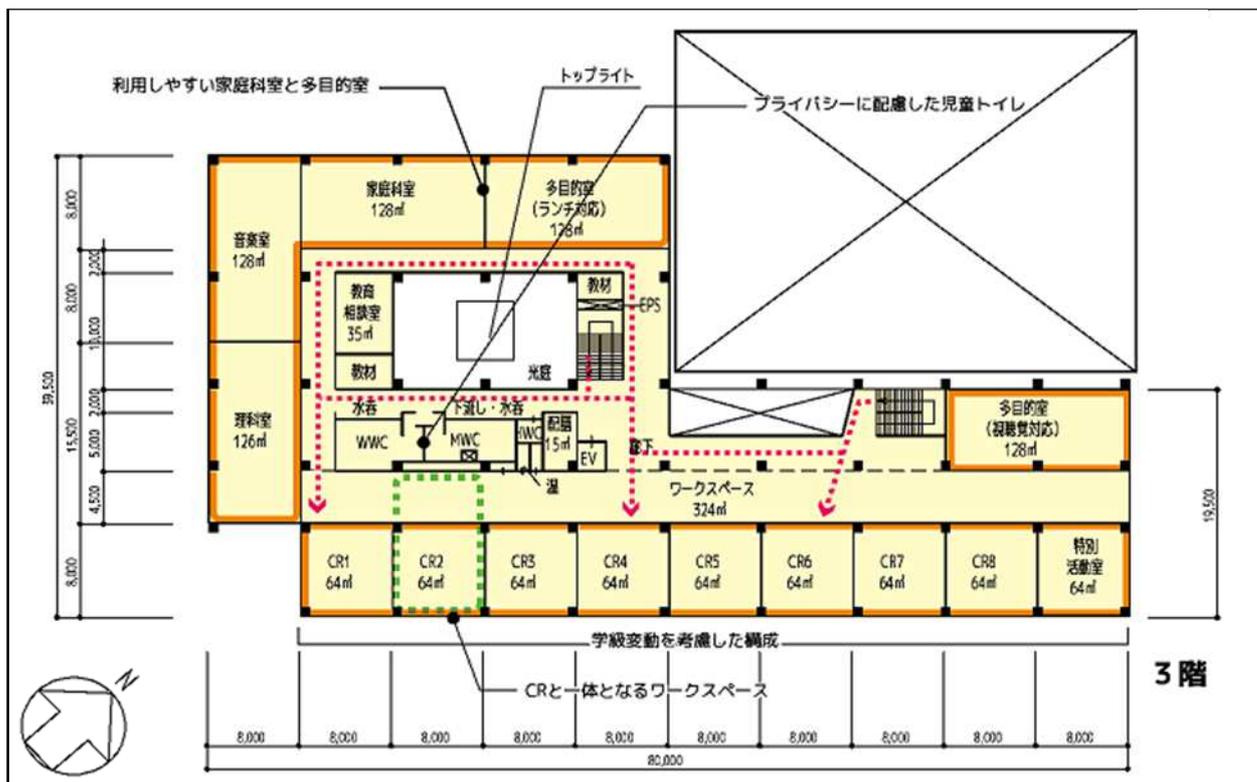
※フェンス等は表示を省略しています。

【「小学校」と「まちづくりセンター」の複合化？】

札幌市では、地域コミュニティの発展や多世代交流の促進等の目的から、小学校の建て替えに併せて、まちづくりセンターなどの地域交流施設との複合化を検討していく旨の方針を定めています。

施設の利用等に当たりましては、児童のセキュリティ、安全・安心に十分配慮しながら進めてまいります。

【3階】



※ 各階の部屋の配置等は、今後の実施設計で変更となる可能性があります。

【平面図案コンセプト】

(1階)

- 「小学校」、「まちづくりセンター」、「児童会館」それぞれに玄関を設けて独立性を確保
- 各施設間の交流が可能となるよう、内部で施設間を行き来するための動線を確保
- 図書室は、地域開放や児童会館等での利用も想定し、1階の児童用玄関（昇降口）付近に配置
- 図書室とコンピューター室を隣接させ、調べ学習等に対応
- ホール正面に、両校の記念品等が展示可能なメモリアルスペース（吹き抜け）を配置
- 屋内運動場は、学校開放時でも管理に支障のない配置

(2階・3階)

- 普通教室は、ワークスペースと一体となった直線型とし、明るく暖かい南東側に配置
- ワークスペースは教室と一体的な利用が可能で、複数学年での学習展開も可能な構成
- 特別支援教室は、明るく暖かい南西側に配置
- 特別教室は、吹き抜けを中心とした回廊型に配置し、教室移動時の利便性等を考慮
- 職員室は2階に設置し、教室や通学路、グラウンドなど、主要な部分を目視可能な配置
- 児童用トイレの入口は普通教室の反対側に設け、児童のプライバシーに配慮

～ ご意見、質疑応答 ～

学校規模適正化の取組に関するもの

● 過去のケースで、実際に統合したあとに反発や苦情等の意見は寄せられているのか。

(回答)

地域や学校によって異なりますが、個別の反対意見や、新たにお引越されしてきた方等から「そもそもなぜ統合したのか」などのご質問をいただくケースはあります。

ただし、件数としてはそこまで多いという印象はありませんし、統合した後のアンケートでも、多くの児童・保護者の方に肯定的に捉えていただいていると考えています。

なお、事後にいただくご意見としては、跡地活用に関するものが多いという特徴もあります。

● 学校規模適正化の関係では、皆さんそれぞれに意見があり賛否両論あると思う。一般論かもしれないが、今の石山小は先生の数が少ない。また、社会の変化により、先生の仕事は非常に複雑になってきていると思う。そういう中でさらに児童数を増やすという取組はいかがかと思う。

(回答)

学校規模適正化について、様々なご意見があることは承知していますが、教育委員会としては、子どもたちに良好な教育環境を提供するために、何とか1学年2学級以上を確保していきたいと考えています。

また、教員の負担についてですが、児童数が増えると、クラス数も増え、結果として学校の教員の配置数が増えます。学校の管理運営や行事などのことを考えると、教員が一定数いることで一人一人の負担の軽減につながるほか、結果として、子どもたちと触れ合う時間の確保や、より質の高い行事等の実施にもつながると考えています。

● 学校は小さいほうがいいというのが世界的な流れではないか。国連でも100名以下が理想的という結論が出ている。世界的な流れに逆行しているのではないか。

(回答)

学校の規模は、国や地域の状況によって異なり、一般的には、ヨーロッパ圏では比較的小規模、アジア圏では比較的大規模と言われます。どちらが理想かは、各国の状況もありますので一概には言えませんが、少なくとも日本では、小学校であれば12学級以上が望ましいという文部科学省の方針が示されています。

札幌市においても、有識者等による審議会での子どもの教育環境の観点から望ましい学校規模を検討し、結論として少なくとも1学年2学級以上が必要と考えています。

なお、国連で「100名以下が理想的」との結論が出たということは把握しておりません。

施設の複合化に関するもの

● まちづくりセンターと学校の複合化は、多世代交流の観点からすばらしいと思うが、子どもたちの安全確保のためのセキュリティ管理等については、各施設でしっかりと取り組んでほしい。

● 学校とまちづくりセンターが一緒になる利点はなにか。

(回答)

少子高齢化の進行により、今後、地域のコミュニティが希薄化していくことが懸念されています。災害時の対応なども踏まえ、札幌市としては、地域のコミュニティを維持していくことは非常に重要なテーマと考えています。

小学校とまちづくりセンターが一体になり、地域の方、保護者の方、そして子どもたちという3世代の交流が生まれ、お互いをより身近に感じられることは、地域コミュニティを深化させるうえでも大きな利点と考えていますし、子どもたちの教育面でも有意義なものと考えています。

● 石山は歴史のあるまち。商業から発展した地域であり、そのバイタリティが今のまちづくりの根源にある。まちづくりセンターが単独で設置されていることが、今の地域のバイタリティにも繋がっていると思う。複合化により50年後にはこのバイタリティが失われてしまうのではないか。札幌市の悪い点だが、画一的なまちづくりになっているのではないかと思う。

● 小学校とまちづくりセンターが一緒になるということだが、これは札幌市の方針なのか。今後はすべての小学校とまちづくりセンターを一緒にしていくのか。

(回答)

札幌市では、多世代交流や地域コミュニティの深化等の観点から、小学校を建て替える際には、まちづくりセンターとの複合化等を検討していく旨の方針を定めています。

一方で、まちづくりセンターに併設されている石山会館などの地区会館については、地域の皆様方からのご寄附をいただき建設されており、地域の皆様のご理解が得られない中で札幌市が一方的に学校と複合化していくことはできません。

このため、すべての小学校やまちづくりセンターを一緒にするのか、とのご質問については、現時点でお答えできませんが、こちらの石山地区では、これまで、まちづくり協議会や連合町内会の皆様、学校のPTAの皆様などと協議させていただき、今回の複合化に関して一定のご理解が得られたことから、今回のような結論に至ったものです。

● 公共施設の集約により、地域が衰退してしまうのではないかという不安がある。仮に施設が分散していたとしても、いろいろな人が、ちょっと遠いけれども、バスに乗ってでもそこへ用事を足しに行く、歩いてみる、人の動きによって地域ににぎわいが生まれるのではないかと思う。

● 学校とまちづくりセンターが一緒になることは、様々な地域活動のうえでも有意義だと思うし、児童会館も一緒にあれば、より様々な世代の方と交流できていいと思う。地域のまちづくりに関して手伝えることがあるなら、是非一緒に作り上げていきたいと思う。

(回答)

地域活動に対するご理解をいただき大変ありがたく思います。

石山地区は非常に地域活動が盛んで、様々な形で、自主的、主体的な地域活動を実施いただいている地域です。まちづくり協議会も設置され、町内会、青少年育成委員会、児童会館といった、様々な団体の皆様方が協議を進めながら、地区全体のまちづくりをどうすべきかについて話し合いが行われており、さらに、まちづくりセンターは地域が自主的に運営を行う、いわゆる「自主運営」も実施されています。

今後、学校とまちづくりセンターが複合化されることで、地域の高い主体性を、より生かしていただけるのではないかと考えています。

● 児童会館に来た子どもたちが、多目的ホールを運動室として使って遊ぶことは可能か。

(回答)

施設利用の詳細については、今後検討していきますが、ご指摘のあった多目的ホールや、さらには学校の体育館などを有効に活用することで、現在の子どもたちの活動に制約がないような形を検討していきたいと考えています。

● 要望になるが、石山まちづくりセンターは、地域が主体で運営しており、その中でいろいろなことを話し合い自主的なまちづくりをしてきている。今後の施設運営にあたっては、別の団体による指定管理ではなく、引き続き地域が主体性を持って管理できるようにしてほしい。

配置計画案に関するもの

● 配置案やイメージ図にはフェンスが表示されていないが、どういう形でフェンスがつくのか。また、救急車両等が入る場合はどこから入るのか。

(回答)

フェンス位置や緊急車両の進入口等の詳細については、平成 28 年度の実施設計の中で、学校等と相談しながら決めていきます。

● 石山小の平岸通側にあるラベンダーはどうなるのか。可能なら移植するなどして残してほしい。

(回答)

工事エリアに影響しなければそのまま残すことも可能ですが、影響がある場合には移植等も含めて検討したいと考えています。

● 子どもの体力づくりのため、学校の水泳授業はもう少し長い期間実施してもいいのではないか。今回、プールは既存のままとのことだが、新たに建て替えて通年利用できるようにしてほしい。

(回答)

授業のカリキュラムを考えると、水泳の授業を通年で行うことは難しいと考えております。また、既存のプールは平成 12 年に建てたもので、まだ使える状態であり、将来的に老朽化した際には改築や改修も検討しますが、現時点での建て替えは困難と考えています。

各階の平面図案に関するもの

● 行事などで、音楽室から楽器を運び出すことがある。今回の平面図案では、音楽室が階段から若干遠いので、もう少し近い場所に変更できないか。

(回答)

同じ大きさの教室であれば、入れ替えることは可能です。なお、教室配置の詳細等については、平成 28 年度の実施設計のなかで学校等と協議して決めていきたいと考えていますので、いただいたご意見は協議の参考にさせていただきます。

● 未来志向で新しい学校を作っていくということであれば、必要以上にこれまでの歴史を引き継ぐ必要はないのではないか。メモリアルスペース等については最小限にすべきと思う。

● 多目的ホールは吹き抜けになっており、多目的ホールの音等が授業の妨げにならないか不安である。2階の吹き抜け部分の壁はどのようなイメージになるのか。

(回答)

吹き抜けのメリットである採光を重視すれば極力ガラス等の素材を多く使うことが望ましいですし、防音性を重視するなら壁にしてしまうことが望ましいと考えています。

詳細の設計は今後ですが、音に対するご不安は、検討部会の中でも多くの委員から頂戴しており、遮音性の高い素材を活用するなど、授業の妨げにならないような仕様を検討していきます。

- 過去、石山会館の大ホールでは、200人程を集めたワークショップ等も開催している。今回の図面では多目的ホールは160㎡だが、現在の大ホールに比べると20㎡ほど狭い。今後、地域で同様のイベント等を開催する際にはどうすればいいのか。多目的ホールをもっと広く確保すべきではないか。また、テーブルや椅子等を収納するためのスペースも必要と思う。

(回答)

当然、少しでも広く確保できれば望ましいとの思いはありますが、一方で、札幌市として施設を建設する際には、ある程度、上限を定めざるを得ないという実情もあります。

多目的ホールでは収容困難なイベント等を行う際には、例えば、学校の体育館を活用いただくなど、複合施設のメリットを最大限有効活用していただきたいと考えています。

なお、多目的ホールの下側、図面上「収」と表示されている箇所が、テーブル等の収納スペースとなる見込みです。

その他

- 石山は自然や緑の豊かなところなので、新たな施設は、木を基調として木の温かみを感じられる内装にしてほしい。今は燃えづらい木材等もあるので、積極的に検討してほしい。

(回答)

予算上の制約はありますが、教室やワークスペース、多目的室やホールなども含めて、積極的に木の素材を活用するよう検討していきます。

- 新校舎の建設工事で、2シーズンはグラウンドが使えないと思うが、その間の運動会等はどうするのか。石山南小のグラウンドを利用するなどの話が具体的に進んでいるのか。

(回答)

運動会については、隣接する学校のグラウンドを借りて実施することを想定しています。どの学校のグラウンドを借りるかまで、具体的に話を進めている訳ではありませんが、石山南小のグラウンドを借りるというのは、最も現実的な対応の一つと考えています。

- 最近、市内の歩道橋が老朽化で解体されているが、石山小前の歩道橋について、解体等の予定があるのか。耐用年数の定め等はあるのか。

(回答)

札幌市では、歩道橋について厳密な耐用年数等は定めていません。また、老朽化が進み利用実績も少ない歩道橋を撤去しているケースはありますが、必要な歩道橋については、今後も維持補修を行い利用することとしており、現時点で石山小前の歩道橋を解体等する予定はありません。

- 新設校では防犯カメラ等は設置されるのか。

(回答)

防犯カメラ等の設置までは想定していません。今回、まちづくりセンターや児童会館との複合化により、地域の方々が利用する施設となりますので、教職員はもとより、そのような地域の皆様の目線で、子どもたちの安全を見守っていただけるのではないかと考えています。

- 現在は石山小にも石山南小にもスクールバンドがない。新設校では子どもも増えるので、可能であればスクールバンドなどの設立も検討してほしい。

(回答)

教育委員会としてお答えできるものではないかもしれませんが、児童が増えることで、スクールバンド等を設立しやすい環境になることは事実と思います。

新設校の児童や保護者の皆様の中に、同様の気持ちをお持ちの方が一定以上いらっしゃれば、その際に学校等にご相談いただければ、より具体的なお話をさせていただけると思います。

- 今回、新たな施設を建設するとのことだが、例えば、藤野の地区センターのように、地域の人
が本を借りられるような施設にできないか。

(回答)

地区センターを各連合町内会に1館ずつ配置するのは困難であるため、現在は、複数の連合町内会エリアを包括した形で設置しています。こちらの地域では、石山、藤野、簾舞、定山溪の連合町内会を包括する形で、藤野に地区センターを設置しています。

なお、新設校については「学校図書館地域開放事業（開放図書）」の実施も見据え、図書室を1階の児童用玄関付近に配置した経緯もありますので、もし新設校で開放図書を実施することになった際には、ぜひそちらをご活用いただければと思います。

- 現在の検討委員会には、商店街や同窓会の方が入っていないと思うが、今後は、検討委員会にこ
ういった方にも入ってもらい、様々な視点から検討すべきではないかと思う。

(回答)

今後の石山部会をどのような体制で進めるかについて、改めて検討部会の委員の皆様にご相談したいと考えています。その際にはいただいたご指摘も踏まえて検討いたします。

<ご意見ご質問について>

説明会に関するご意見、ご質問は、下記の【お問合せ先】までお寄せいただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、新設校の学校施設に関するご意見は、今後の施設設計等の都合上「5月31日(火)」
までにお寄せいただきますよう、ご協力をよろしく願いいたします。

【お問合せ先】

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

電 話：011-211-3836 F A X：011-211-3837

E-mail：gakkokibo@city.sapporo.jp